

幼 児 の 教 育

昭 和 六 年 四 月

驚 く 心

おや、こんなところに芽がふいてゐる。

畠には、小さな豆の嫩葉が、えらい勢で土の塊を持ち上げてゐる。

藪には、固い地面をひき割らせて、ぐんぐんと筍が突き出して来る。伸びてゆく蔓の、なんといふ迅さだ。

竹になる勢の、なんといふ、すさまじさだ。

驚く心、それだけが、自然の真髓を、ほんとうに見る。

おや、この子に、こんな力が。

あの一と言、なんといふ純真さのだらう。

まあ、この線の生きてゐること。

えつ、あの子が………。

驚く人であることに於て、教育者は詩人と同じだ。

驚く心が失せた時、詩も教育も、形だけ美しい殻になる。(倉橋惣三)